

2014 年度 オレオマテリアル部会(関東支部)セミナー

『デザインに優れた高分子界面活性剤が拓く乳化技術の展望』

オレオマテリアル部会では各種のセミナーやシンポジウムを開催して、油化学関連分野における機能性素材・材料の創製や応用に関わる研究開発について意見交換や情報提供を行なっております。近年、高分子界面活性剤について強い関心が集まり、様々な乳化技術が開発されております。

そこで今回のセミナーでは、この分野における著名な方々を産官学の多方面からお招きし、高分子界面活性剤を用いた乳化技術を中心に講演いただくとともに、処方、製剤化技術についてもご紹介いただきます。また、今後予想される展望について考察を披露していただきます。多数の皆様のご来場をお待ちしております。

日 時:平成 26 年 11 月 11 日(火)13:30~17:00

主 催:日本油化学会 オレオマテリアル部会

協 賛:日本化学会、日本化粧品技術者会、他

会 場:東京理科大学・1号館 17F 記念講堂(東京都新宿区神楽坂 1-3、飯田橋駅下車、徒歩 3 分)

<http://www.tus.ac.jp/info/access/kagcamp.html>

【演題と講師】

1.『機能性界面制御剤(AIM)の界面吸着と乳化特性』

(13:30~14:30)

千葉科学大学 薬学部 山下 裕司 氏

機能性界面制御剤(Active Interfacial Modifier: AIM)とは、水を含む多くの溶媒に分子溶解せず、自発的に界面に局在する両親媒性物質の総称である。本セミナーでは AIM の一例としてシリコーン系両親媒性高分子を紹介し、水/シリコーン油系の乳化特性について最新の研究成果も含めて概説する。

2.『超耐塩型アルキル変性カルボマーとカルボマーNa 型新規増粘剤の応用』

(14:30~15:15)

住友精化株式会社 機能化学品研究所 村上 亮輔 氏

超耐塩性の特徴を有するアルキル変性カルボマー「アクベック SER(K): Acrylates /C10-30 alkylacrylate crosspolymer」は酸化チタン、無機パール材等の分散性、乳化性に優れている。一方、カルボマーNa 型新規増粘剤として開発した「アクベック MG」は、さらさらした軽い特性を有する。今回、これらを併用することによって、酸化チタンの分散性と乳化安定性、更に触感に優れた乳液、日焼け止めクリーム等の化粧品への応用について報告する。

■休憩 (15:15～15:30)■

3.『アルキル変性水溶性高分子を使用した機能性化粧品製剤化技術について』

(15:30～16:15)

ニッコールグループ 株式会社コスモステクニカルセンター 応用開発部 山口 俊介 氏

化粧品製剤化技術において重要である乳化技術に高分子乳化が挙げられる。しかし、汎用的なアルキル変性水溶性高分子を単独で用いても安定的な製剤作成は困難であり、併用して配合する界面活性剤などとの組み合わせにより、その機能を高めることが可能である。本発表では、これら組み合わせによる乳化安定化や機能的化粧品製剤について報告する。

4.『水溶性両親媒多糖の乳化機構と化粧品への応用』

(16:15～17:00)

花王株式会社 メイクアップ研究所 秋山 恵里 氏

近年の水中油型乳化化粧品はヒドロゲル化剤が多く用いられている。特に、親水性界面活性剤を使用せずに多量の油剤や疎水性の粉体を水中に分散させる場合、乳化安定化能を持つヒドロゲル化剤は非常に有効である。本講演では、会合性増粘剤である水溶性両親媒多糖HHM-HECを用いた水中油型乳化技術と化粧品への応用について紹介する。

■セミナー終了後、同記念講堂 17 階 大会議室にて、ミキサーを開催致します■

【申込み&問い合わせ】

申込み: 当日受付も可能ですが、事前に必要事項(氏名、所属、連絡先、参加費額、ミキサー参加の有無)をご記入の上、下記 E-メールにてご連絡をお願いします。

参加費: 学生 2,000 円 正会員 5,000 円 法人会員・協賛学会個人会員 6,000 円
会員外 10,000 円(テキスト代込み、当日会場にてお支払い願います)。

ミキサー: 4,000 円

連絡先: (株)資生堂 化粧品基盤研究センター 大森 隆司(部会幹事)

E-mail: takashi.oomori@to.shiseido.co.jp

申込み締切り(ミキサー参加の場合): 10 月 31 日(金)